

議会だより

研修会

北海道町村議会議員 研修会

7月6日に北海道議長会主催による町村議会議員研修が札幌コンベンションセンターで開催された。コロナ禍の開催であり、道町村を二部に分けての開催となった。

講師は政治ジャーナリストの泉宏氏。「参院選最終情勢分析と選挙後の政局展望」と題して講演を受けた。

参院選が4日後に迫る中で泉氏の予想は、「与党に負ける要素はほとんどなく岸田総理一強。そしてそれは、今後の岸田総理にとって厳しい2年間になるだろう。」

その根拠に過去の選挙結果を交えた裏話や前回の自民党総裁選の裏話等々報道されていない話も聞かせていただき、大変有意義な講演であった。

(広報特別委員会 小松)



泉宏氏

空知町村議会議員 研修会

7月14日、秩父別町ファミリースポーツセンターにおいて、管内14町の議員が一堂に会し空知町村議会議員研修会が3年ぶりに開催された。

研修会の講師として、(株)

北海道二十一世紀総合研究所調査部特任審議役 木本晃氏を招き、「まちが素敵になるしかけ」と題して講演された。出生率が上がっても、人口が減っていくのは止められない。札幌一極集中も止めることはできない。地方は札幌

の力を削ぐのではなく、いかにして札幌の力を借りる仕組みを作るかが大切である。例えば、新幹線が札幌延伸になったとして、観光客の最終目的地は札幌ではなく、札幌経由で各地方に向かうこととなる。地方はそのための準備をする必要がある。

(広報特別委員会 中村)



木本晃氏

北空知議会議長連絡 協議会研修会

7月20日、妹背牛町民会館において、北空知1市4町の議員が一堂に会して3年ぶりに開催され、本町から8名の議員が参加した。

研修会の講師として、上川大雪酒造株式会社 代表取締役社長 塚原敏夫氏を招き、「地方活性化の取り組み 上川町モデルとは」と題して講演された。酒蔵を作ることによって町おこしが出来るものではなく、いかに活用するかが重要である。上川町では、酒蔵が出来たことにより、宿泊施設を再興し、チーズ工房を建設した。今後は、上川高校の存続に向け小樽商科大学のサテライトを誘致することとなっている。

地方の活性化には様々なものを関連付けていく必要があることを学んだ。

(広報特別委員会 中村)



定例会を傍聴しませんか

第3回定例会(会期9月14日～16日)
※傍聴する際はマスク等の着用をお願いします。

道外視察

総務産業常任委員会 道外視察（7月11～13日）

7月11日

広島県広島市の「原爆ドーム・平和記念公園・平和記念資料館」を視察。原爆被災地の当時の悲惨な状況を知り、平和の重要性を実感。

7月12日

四国まで瀬戸内海を7つの橋で結ぶ「しまなみ海道」を通り、高知県今治市「タオル美術館」を視察。午後より本町と同様、ひまわりによる町おこしを行っている香川県まんのう町を訪問。

ひまわり栽培圃場やひまわり油の精製施設の視察。まんのう町町長や議員、関係団体代表、担当職員等と現状について懇談。

8月6・7日に本町で行われる「第4回全国ひまわりオイルサミット」参加の為、来町される。



香川県まんのう町を訪問

7月13日

瀬戸大橋を通り、国宝でありユネスコ世界文化遺産にも指定されている兵庫県姫路市「姫路城」を視察。

別名「シラサギ城」とも呼ばれる天守閣内部から上層階までを順次見学し、その精巧さに圧倒された。その後帰省。

（広報特別委員会 北島）

活動報告

【8月】

1日：総務産業常任委員会・全員協議会

活動予定

【9月】

- 3日：開町130年記念式
- 6日：北竜町敬老会
- 7日：議会運営委員会
- 9日：真龍神社秋季例大祭、美葉牛神社秋季例大祭
- 10日：鈴木直道政経セミナー
- 14～16日：第3回北竜町議会定例会
- 下旬：例月出納検査（監査委員）

6～7日：第4回ひまわりオイルサミット

8日：ラジオ体操・みんなの体操会

18日：第8回北空知JR留萌本線問題検討会議

19日：北竜盆踊り大会

22日：例月出納検査（監査委員）

23日：総務産業常任委員会

23～26日：令和3年度北竜町各会計決算審査（監査委員）

30日：空知町村議長会第3回役員会

議員コラム

2020年2月に国内感染が確認されてから猛威を振るいつける新型コロナウイルス。

議員任期4年間の内、通常の活動ができていたのは最初の1年間だけで、あとの2年間は規制が多く活動はしていたが不自由な状態。

最終年度の現在は、自主的な感染予防をした上で行動制限等は無くなったが、感染リスクは今まで以上に高くなった。無症状や軽症者がほとんどだが、重症化や後遺症に悩んでいる人も現実にいる。自分もいつかは感染すると思うが、それを周りの人達にうつしたくないと思う。

皆もそう思っているだろうが、今までのうっ憤を晴らすかのように、連日観光

地や繁華街には人が溢れ、予防対策も限界にきている気がする。

人の動きを制限すれば経済に多大な損失を与えかねないのは過去の状況から理解できる。だが、もう少しならかな動きにできないものだろうか。

ウィズコロナと言いつながら変異を繰り返しながら感染力を強化するこのウイルス。インフルエンザと同様に扱おうという動きに不安を感じる。

私の勝手な解釈で8か月に1回、4年間掲載させていただいた議員コラムでしたが、私の番はこれで最後となります。稚拙（ちぢせつ）な内容にお付き合い下さった皆さん、本当にありがとうございました。（北島勝美）

